

猿橋賞 News Letter 創刊号 2018.2.1

一般財団法人 女性科学者に明るい未来をの会



創刊に寄せて 会長 石田瑞穂

一般財団法人「女性科学者に明るい未来をの会」の現在の主な活動は、自然科学の分野で顕著な業績を収めた女性科学者に毎年「猿橋賞」を贈呈することにあります。今年で 37 回目になりました。

この賞は、1980 年に気象研究所地球化学研究部長を定年で退官される猿橋勝子博士が、退官記念事業の一環として、友人・先輩から寄せられた寄付金五百万円の全額を提供され、それを当初の基金として「女性科学者に明るい未来をの会」を設立し、その事業として「学術賞」(猿橋賞)を、優れた研究業績を挙げた女性科学者に贈呈することにしました。

最近、様々な分野で女性の活躍が目立ってまいりましたが、一般には女性という事で十分な活動をし難い状態に置かれていることが未だ少なくありません。私たちは、女性科学者の持つ極めて高い潜在能力を十分生かせるように、いくらかでも励まして自然科学の分野で活躍できるようにという願いを込めて活動を続けてまいりました。

今後も賞は創立の趣旨に沿って、科学者として既に確立した研究者を顕彰するというより、この賞の受賞により一層輝けるように、また後進の育成にも貢献して頂けるようにと、50 歳未満で国内に在住・在職の女性研究者を対象としてまいります。

猿橋賞受賞者の多くはその後活躍の幅を広げられ、その結果として昨年は文化勲章や紫綬褒章などの受章者を輩出致しました。受賞者の活躍は、大変心強いです。当法人の活動が今後一層女性研究者の活躍に貢献できるように、多くの皆様のご支援を願っています。

第 37 回猿橋賞授賞式 2017 年 5 月 27 日

さる 2017 年 5 月 27 日(土)、霞ヶ関ビルにおいて、第 37 回猿橋賞授賞式が執り行われました。受賞者は、千葉大学グローバル・プロミネント研究基幹 准教授の石原安野(いしはら あや)博士、受賞業績は「**アイスキューブ実験による超高エネルギー宇宙線起源の研究**」です。

10 万光年の広がりを持つ銀河の外には、高エネルギーの光が届かない「宇宙の死角」がある。その「宇宙の死角」を見るために、10 ペタ(10 の 16 乗) エレクトロンボルトという超高エネルギーのニュートリノを捉える。そんな夢のようなプロジェクトは、南極の氷河の 1 立方キロメートルに 86 本掘られた穴に 7 年かけて埋め込まれた 5000 個の検出器を使って進められた。そして 2012 年、石原安野博士はこの「アイスキューブ実験」で初めて 10 の 15 乗エレクトロンボルトを超えるニュートリノを検出しました。南極の氷原に観測装置を設置するという壮大なプロジェクトと少し難しい宇宙物理研究



石原安野博士

の一端を、石原博士は素敵な笑顔で講演され、授賞式参加者のハートを魅了しました。

受賞記念講演に続き、第一回猿橋賞受賞者、2016 年文化勲章受章者の太田朋子博士による特別講演が行われました。太田博士は、チャールズ・ダーウィンの発見、メンデル遺伝学から始まり、DNA の発見を経て分子生物学に一般化され、ヒトゲノムの解読に至る発展を遂げる、生物進化学の壮大な歴史を総括されました。その中で浮かびあがってきた疑問、「自然淘汰が働くか働かないかの境目はどうなっているのか」、「分子進化速度が年あたりほぼ一定なのはなぜか」、「多型の度合いが種によってあまり変わらないのはなぜか」、に答える際にパワーを発揮した「ほぼ中立説」について綿密に解説されました。太田朋子博士のご講演、圧倒的な迫力でした。



太田朋子博士

授賞式に引き続き、懇親会が開催されました。冒頭、男女雇用機会均等法制定の立役者、元文部大臣の赤松良子氏から、女性科学者への温かい励ましのご祝辞をいただきました。懇親会は、石原博士の昔からの知己の方々、ご家族の方々のご参加をいただき、会場のあちこちで笑顔が咲く和やかなひと時でした。千葉大学松本先生の乾杯のご挨拶、千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター長の吉田先生のご祝辞に続き、石原博士の高校時代の恩師、伊藤賢典先生のお話がありました。高校時代、石原博士のチームは「何度失敗してもめげずに穴にボールを入れに行くロボット」を制作、という、科学者の仕事を象徴する命名が印象的でした。



SARUHASHI37

最後に SARUHASHI37 集合写真をパチリ。後進の女性科学者へのエールを送り続けることを心に誓い、年に一度の授賞式は幕を閉じました。

第 38 回猿橋賞授賞式 平成 30 年 5 月 26 日（土）霞ヶ関ビル 35 階 東海大学校友会館「富士の間」です

猿橋賞 第 36 回までの受賞者

- | | | |
|--|---|---|
| 第 1 回 (1981) 太田朋子
「分子レベルにおける集団遺伝学の理論的研究」 | 第 13 回 (1993) 黒田玲子
「非対称な分子の左右や DNA 塩基配列の識別のしくみの研究」 | 第 25 回 (2005) 小谷元子
「離散幾何解析学による結晶格子の研究」 |
| 第 2 回 (1982) 山田晴河 (故人)
「レーザー・ラマン分光による表面現象の研究」 | 第 14 回 (1994) 白井浩子
「ヒトの排卵と卵成熟のしくみの研究」 | 第 26 回 (2006) 森 郁恵
「感覚と学習行動の遺伝学的研究」 |
| 第 3 回 (1983) 大隅正子
「酵母細胞の微細構造と機能の研究」 | 第 15 回 (1995) 石井志保子
「代数幾何学における特異点の研究」 | 第 27 回 (2007) 高数 緑
「熱帯における雲分布の力学に関する観測的研究」 |
| 第 4 回 (1984) 米沢富美子
「非結晶物質基礎物性の理論的研究」 | 第 16 回 (1996) 川合眞紀
「固体表面における化学反応の基礎研究」 | 第 28 回 (2008) 野崎京子
「金属錯体触媒を用いる極性モノマーの精密重合の研究」 |
| 第 5 回 (1985) 八杉満利子
「解析学の論理構造解明のための方法論」 | 第 17 回 (1997) 高倍鉄子
「植物耐塩性の分子機構に関する研究」 | 第 29 回 (2009) 塩見美喜子
「RNA サイレncing 作用機構の研究」 |
| 第 6 回 (1986) 相馬芳枝
「新しい有機合成触媒の研究」 | 第 18 回 (1998) 西川恵子
「超臨界流体の研究」 | 第 30 回 (2010) 高橋淑子
「動物の発生における形作りの研究」 |
| 第 7 回 (1987) 大野 涼
「電気化学的薄膜形成の基礎的研究」 | 第 19 回 (1999) 持田澄子
「神経伝達物質の放出機構の研究」 | 第 31 回 (2011) 溝口紀子
「爆発現象の漸近解析」 |
| 第 8 回 (1988) 佐藤周子 (故人)
「放射線によるがん細胞分裂死の研究」 | 第 20 回 (2000) 中西友子
「植物における水および微量元素の挙動」 | 第 32 回 (2012) 阿部彩子
「過去から将来の気候と氷床の変動メカニズムの研究」 |
| 第 9 回 (1989) 石田瑞穂
「微小地震による地下プレート構造と地震前兆の研究」 | 第 21 回 (2001) 永原裕子
「隕石や惑星物質の形成と進化」 | 第 33 回 (2013) 肥山詠美子
「量子少数多体系の精密計算法の確立とその展開」 |
| 第 10 回 (1990) 高橋三保子
「原生動物の行動の遺伝学的研究」 | 第 22 回 (2002) 真行寺千佳子
「生物のべん毛運動に関する研究」 | 第 34 回 (2014) 一二三恵美
「機能性タンパク質『スーパー抗体酵素』に関する研究」 |
| 第 11 回 (1991) 森美和子
「医薬品合成のための新しい反応の開発」 | 第 23 回 (2003) 深見希代子
「生命現象におけるリン脂質代謝の役割」 | 第 35 回 (2015) 鳥居啓子
「植物の細胞間コミュニケーションと気孔の発生メカニズムの研究」 |
| 第 12 回 (1992) 加藤隆子
「高温プラズマの原子過程の研究」 | 第 24 回 (2004) 小磯晴代
「衝突型加速器 KEKB における世界最高輝度達成への貢献」 | 第 36 回 (2016) 佐藤たまき
「記載と系統・分類学を中心とする中生代爬虫類の研究」 |

猿橋ニュースこの二年 2016-17

- ✧ 2016.11 太田朋子氏 (第 1 回猿橋賞受賞者)
文化勲章受章
自然科学の分野で女性初!!
自然科学の分野で女性受章者が初めてというのは驚きでした。常に先頭を切って進まれる太田先生、おめでとうございます。
- ✧ 2016.4 中西友子氏 (第 20 回) Hevesy 賞受賞
- ✧ 2016.5 永原裕子氏 (第 21 回) 紫綬褒章受章
- ✧ 2017.5 森郁恵氏 (第 26 回) 紫綬褒章受章
- ✧ 2017.11 川合眞紀氏 (第 16 回) 紫綬褒章受章



本欄

✧ 猿橋勝子という生き方 米沢富美子著 (岩波科学ライブラリー)

「未来をの会」を創設した猿橋勝子先生が逝去されて 10 年になる。ご他界直後、猿橋先生とその業績を記憶し、伝え残したいと、協力して資料を集め、原著論文を精査し、聞き取りを重ね、米沢富美子氏 (前会長) が書き下ろした評伝である。記された逸話の中で、終戦後間もない時期、ビキニの水爆実験による海洋汚染問題に端を発したフォルサム教授との放射能分析の精度を競うくだりは圧巻である。「科学者はフィロソファたれ」という猿橋先生の師 (三宅泰雄氏) の言葉どおりに、科学者として、事実のみ謙虚に誠実に向き合い、常に高みを求め続けた「生き方」がここにある。

(第 10 回受賞者 高橋三保子)



連絡先 〒171-0022 東京都豊島区南池袋二丁目 49-7 池袋パークビル 1F 一般財団法人 女性科学者に明るい未来をの会
Email: saruhashi2018@saruhashi.net HP: <http://www.saruhashi.net/index.html>
会の活動を支える賛助会員を募集しています。皆様のご加入をお待ちしております。 詳しくは HP をご覧ください。

編集後記：ラニーニャで寒い冬ですが、皆様のご健勝を祈り、女性科学者たちの熱い奮闘模様をお届けします。 YNT